しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。
わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会　ニュースレター
第 128 号（2020 年 7,8 月合併号）

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
http://izumichurch.holy.jp/
発行人　宮地　宏一

ビワ・ミニトマト・イチゴ・ブルーベリー・ジャガイモ・ピーマン・キュウリ・トウモロコシ。これらすべて家庭菜園で今年収穫したり、植えたもの。少し欲張った感は否めませんが、どれもこれも豊作です。早く収穫し過ぎて、多少酸っぱくても、売っているものよりおいしく感じるのはとても不思議。そういえば、メロンも育てていました。大きくなるまで待てるでしょうか？？

8 月に「イズミン・キッズ スペシャル」「夏の宿題会」を行う予定です。日程や内容などが決まり次第、ホームページでお知らせします！

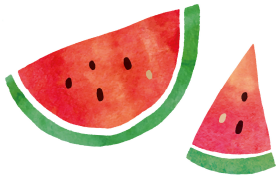
今月も皆様の上に、ご家庭の上に、神様からの豊かな恵みが注がれますように。　(2020.07.01)

存在する価値

長男が小学校に入り、テストの点数を見るのが長女のと合わせて二倍になりました。彼らの点数を見て、「お～天才！」「ん？どうした？」「おいおいおーい！」と点数によって一喜一憂する私たち。子どもたちも私たちの反応に敏感になっています。「ほめて伸ばす」子育てを最近まで目指していたような気がしますが、真逆に突っ走っているのです。「なんで、こんなこと分からないの？」「頭使って、全然ダメ」こんなこと言っては子どものためにならないと分かっているのに、ついつい口走っています。

そんな自分の言動を振り返った時、私は点数や“できること”で子どもたちを評価していたことに気づかされたのです。いや私自身もそのように評価され、自分を評価してきました。「勉強できることだけが人生ではない」と言いつつ、勉強ができなければ何も始まらないという考えに縛られていたのです。これは勉強ができなくても、子どもの自主性に任せておけば良いということではないような気がします。

自分や子どもたち、周りの人たちの存在価値を、どこに置いているかが問われているのです。もし点数や“できること”だけが人の価値を決めると考えているなら、「何もできない人」は全く存在価値がなくなってしまいます。



先日、新聞に「レンタルなんもしない人」さんの記事が載っていました。彼は「『何もしない、できない自分』という存在を、一時的に貸し出すサービスを提供している」そうです。

子どものころから、集団行動が苦手で一歩引いて周りをボーッと眺める癖があった。協調性がないと映るらしい。親にも、友だちにも、先生にも「なんでそんなこともできないの」と言われた。…

どうして自分はダメなのか。教材開発の会社に入り、チームに貢献しようとした。飲み会の幹事を引き受けるも予約ミス。同僚と気の利いたやりとりもできない。上司には「おまえはいてもいなくても一緒だな」と嫌みを言われた。3 年で退職。その後、フリーのライターなどもしたが、続かなかった。

一つはっきりしたのは「自分は何もしないのが向いている」こと。すると、見知らぬ人たちの飲み会に呼ばれ、その場に同席するイメージが浮かんだ。2018 年 6 月、こうして「レンタルさん」が誕生する。のろいのように自分を縛り付けてきた「何もできない」ことが、武器として反転した瞬間だった。

面白そうだから始めたのが本音だが、理念みたいなものはある。「人は存在するだけで価値はある」ということだ。生産性が求められる社会の中で、そうでない人もストレスなく生きていけたらいい。レンタルさんは、その実証実験とも言える。

（朝日新聞 2020. 6. 5「1 語一会」より）

何もしないことに徹している「レンタルさん」はすごいです。私だったら自分を認めてもらうために、すぐに「できる」アピールをしてしまうことでしょう。アドバイスをしたり、手伝ったり、余計なことをたくさんしそうです。けれど彼は依頼人のそばにいるだけ。何もしない。そんな何もしない人を求めている人が多くいることにも驚きです。

それにしても「人は存在するだけで価値はある」とは、何ができるかということで評価されてきた私たちにとってホッとし、とても励まされることばです。

一方で、存在するだけで価値があると分かるためには、自分の存在を喜び、認め、必要としてくれる人が不可欠です。そこにいるだけで、無視されていたら、やはり自分はいてもいなくても一緒になってしまうでしょう。「レンタルさん」は「何もしない」自分の存在を認め、必要としてくれる人たちによって自分の存在価値を見出したのです。

このように私たちの存在を必要としてくれる人は必ずいます。けれど競争社会に翻弄されている間は、決して気づくことができないのです。そして誰よりも私たちを無条件に、ありのまま愛し、喜び、認めてくださる方がいます。そのお方こそ、主なる神様です。

主なる神様は私たちの存在を通して、ご自身の素晴らしさを現わすことを何よりも望んでおられます。また主なる神様の存在を知り、喜ぶことで、私たちは自分の存在価値を見出すことができるのです。子どもたちにも点数や“できること”の前に、まず主なる神様に愛され、認められていることをもっと伝え、彼らの存在を喜んでいけたらと願っています！

わたしの目には、あなたは高価で尊い。
わたしはあなたを愛している。

先月、40 年弱、牧師として仕えてきた妻の父が 68 歳で天に召されました。50 代前半でパーキンソン病と診断された後は大変苦労をしましたが、神様への熱い思いと「ひとりでも多くの人に福音を」という精神は衰えませんでした。娘四人はその信仰を受け継いでいます。

葬式の前日のお別れ会の時、隣に座っていた姪が聞いてきました。

「天国に行っても、病気はあるの？」

「ないよ。天国はね、病気も苦しみもないんだ」

「あ～よかった。おじいちゃん、病気と一緒に天国にいったのかと思ってた」

父が病気で苦しんでいる姿を身近で見てきた彼女だからこそ、天国に行ってまで苦しんでいたらどうしようと心配したのでしょう。

この彼女との短い会話を通して、改めて主イエス様を救い主と信じ、救われた者にとって、肉体の死がすべての終わりではないと覚えさせられました。この世では色々な苦しみ・悲しみがあります。しかし私たちは苦しみ・悲しみがない天国に行き、そこで愛する家族と再会できる望みが与えられています。だからこそ地上の別れという悲しみはありますが、死は絶望ではないのです。

教会へのご招待

- 礼　　拝：毎週日曜日 10：30～12：00、16：00～17：00
- 祈　祷　会：毎週金曜日 10：30～12：00
- イズミン・キッズ：毎週日曜日 9：45～10：20
- おやこ de えほん：毎週水曜日 10：30～13：30
- Prayer of the Kitchen：毎月第三火曜日 10：30～13：30